

三中だより

令和4年12月5日(月)

大田区立大森第三中学校

校長 笛木 啓介

令和4年度第9号

大田区中央4-12-8

「能をつかんとする人、「よくせざらんほどは、なまじひに人に知られじ。うちうちよく習ひ得て、さし出でたらんこそ、いと心にくからめ」と常に言ふめれど、かく言ふ人、一芸も習ひ得ることなし。

未だ堅固かたほなるより、上手の中に交りて、毀り笑はるゝにも恥ぢず、つれなく過ぎて嗜む人、天性、その骨なけれども、道になづまず、濫りにせずして、年を送れば、堪能の嗜まざるよりは、終に上手の位に至り、徳たけ、人に許されて、双なき名を得る事なり。

天下のものの上手といへども、始めは、不堪の聞えもあり、無下の瑕瑾もありき。されども、その人、道の掟正しく、これを重くして、放埒せざれば、世の博士にて、万人の師となる事、諸道変るべからず。」(第百五十段)

これは徒然草の中の一節です。徒然草は、鎌倉時代末期の1330年頃に吉田兼好によって書かれた随筆です。日本の古典作品の代表作で「つれづれなるまゝに、日くらし硯にむかひて、」の書き出しは耳にした人も多いのではないのでしょうか。全部で243の文章でまとめられ、吉田兼好が、思ったことや感じたこと、伝え聞いたことなどが書かれた随筆です。今の世でいったらツイートとかブログのようなものではないのでしょうか。なんとなく意味が通じそうな言葉も端々があるので、大意は掴めるかもしれません。古語を調べたりして、原語の文章に忠実とはいきませんが、現代の言葉で意識してみます。

「能を身につけようとする人は「上手でないうちは、あまり人に知られないほうがよい、よくできるようになってから人前に入るほうがかっこ

いい」とよく言われるが、そういうことを言う人こそ、一芸を極めることができない。

まだ、未熟なうちから、上手な人に混ざり嘲り笑われても恥ぢることなく、気にせず頑張っている人は、天性の才能がなくても、こつこつと続けて歳月を過ごしていくことで、練習を積み重ねない人より上達し、ついには名人となり、人間性も磨かれ比類なき名手となるのである。

この世で、名人と呼ばれている人でも、始めは、下手で評判が悪かったのだ。それでも、正しく道を極め、練習熱心に取り組めば、いずれその道の名人となり、多くの人の師となるのは、どの道でも同じことである。」

これは、上達するために取り組む姿勢の一つとして書かれており、今でも共感できることがある文章です。どんな状況でも、あせらず自分のすべきことに取り組んでいくことは自身の成長に欠かせない、また、自分はだめだと思ってもない、あまり考えすぎずに毎日こつこつと過ごしていくことが大切である、と言われているようです。結果がでないといふ「こんなこと続けてもむだだよな」とか「これをやり続けていいのだろうか」と思ってしまいますが、そんな気持ちへのエールのようなでもあります。様々なアドバイスに耳を傾けつつ直向きにやり続けることの大切さをすでに700年くらい前の兼好が世に語っていることで、物事に取り組む姿勢はいつも不変なのだなど感じさせます。

二学期もさまざまな行事に取り組みよいよ学期末です。こうした中で、今学期を振り返り、落ち着いて学校生活を大切に取り組むことで、互いに刺激を受けながら自分を高め成長していったほしいと考えます。

スクールカウンセラー出勤予定日

※大森三中相談室直通電話
(3773) 7831

藤田 啓子	12/6(火)、12/13(火)、12/20(火)
鳥海 真里	12/7(水)、12/14(水)、12/21(水)
田中 典子	12/9(金)、12/16(金)

12月の行事予定

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	
		学校閉鎖期間(1月3日迄)				冬季休業日始		終業式 中学校意見交流会 於地上会館	大掃除	地域連携支援委員会 学文電習協賛会					職場体験報告会(2)⑤⑥	中央委員会	漢字検定申し込み朝 職員会議	専門委員会	全校三者面談 終 ③カット	避難訓練 12日~16日の間に実施	土曜補習	安全指導 ⑤⑥カット 全校三者面談	全校三者面談 ⑤カット	全校三者面談 ③カット	全校三者面談 ⑤カット	全校三者面談 ⑤カット	全校三者面談 始 ④カット			学年会 ⑥カット	(3)⑥カット

新しい取り組み

生徒会長

十月に生徒会は新体制となり、「校則を一から作る」という新しい取り組みをすることとなりました。校則改定は去年から、生徒会の中の大きな議題となっています。一部は改定できたものの、大きく変えるということはできていませんでした。これまでに生徒のみなさんからは、意見箱などを通して、校則に対する様々な質問や意見、要望などをもらっています。今までとは全く違う取り組みをしているので難しいところも多々ありますが、個性を輝かせることができる学校を目指して、生徒会本部役員7名で頑張っていきます。

さて、校則を一から作り上げることは、私たちだけでは実現させることは難しいです。だからこそ意見箱を活用し、生徒のみなさんの声を多く取り入れていきたいです。みなさんの声が大森三中をより良くする大きな一歩となります。このことは生徒会のスローガンである「花火」や、大森三中のスローガンの「生徒の生徒による生徒のための学校」を実現するものと考えています。三中の校則を改定するにあたっては、みんなの学校生活を見つめなおし、学校の様々なところに目を向けていられるようにしています。そのために感覚のアンテナを張って、日ごろの学校生活に取り組みます。そうした中で疑問に思ったことなどを、中央委員会で取り上げて話し合いをし、校則の意義などについても一つずつ確認しています。そして、みんなで知恵を出し合い、よりよい方法や改善策を考えていきます。毎月行われる専門委員会や中央委員会、そして学級討議を経て行われる生徒総会を通して、生徒一人一人が質問や疑問をもち、どうしたらよいか考えてみましょう。改定までの取り組みの中で、みんなが自分の学校生活について考えることが大切なのだと思います。

私は、生徒会長として、生徒のみんなの意見を反映させて、活発な意見交流ができるような生徒会を創り上げ、生徒会選挙で掲げた公約の実現にむけて取り組んでいきたいです。そのためにも、全校生徒の皆さんで協力していきたいです。

2学期をふり返って

生徒会副会長

9月に生徒会役員選挙があり、新たな生徒会役員が選出されました。10月に、本格的に専門委員会や生徒会本部役員が新体制になってから、2ヶ月ほどが経ちました。私は、この2ヶ月で、学校全体がより良い方向に進んでいると感じています。先日、生徒の最高議決機関である生徒総会が行われました。生徒総会では、各専門委員会の新たな方針の確認や、学級討議で出た質問や意見に対する回答などかなされました。生徒総会に向けて、各クラスでは学級討議が行われました。以前に比べると、学級討議で出た質問や意見が少なかったように思います。質問や意見が多ければ、より良い方法や改善策を考えることができます。しかし、少ないとそれができません。だからこそ、学級討議ではたくさんの質問や意見を出すことが大切です。一方で、各専門委員長と学級委員、生徒会役員が集まる中央委員会では、たくさんの発言があり、さまざまな意見の交流ができています。中央委員会では、生徒総会に向けて、たくさん話し合いを重ねました。以前は、一人一人が発言するのが少なかったのに比べて、今では多くの方が積極的に話し合いに参加しています。学校討議でも、たくさんの意見や質問が出て、活発な討議ができるとよいと思います。このことを実現できれば、大森三中のスローガンである「生徒の生徒による生徒のための学校」に大きく近づけられるのではないのでしょうか。今回の生徒総会を通して、学んだことや感じたこと、考えたことが多くあると思います。これらを忘れず、今後につなげていきましょう。

2学期を終わりが近づいてきました。3学期には、学芸発表会(展示の部)や卒業式などがあります。3学期は、今よりもみんなが積極的に、たくさんの意見や考えを出し合い、よりよい大森三中を目指して、生徒全員でがんばっていきましょう。



二学期は、9月に生徒会選挙があり、新たに生徒会本部役員が、その後後期専門委員会が各クラスで選出され、生徒会活動がスタートしました。活動方針などについては、学級での討議を経て、11月28日(月)の生徒総会で確認しました。当日は、パソコン室と各クラスをオンラインで結び、実施しました。生徒総会にむけて一人ひとりが自分のことと考えて、意見を出しました。こうした取り組みが学校を活性化していくことにつながります。